

**ふるさと小野町会
ふれあい通信**

**名前の世界・苗字の世界
先崎 威洋**

(飯豊出身・神奈川支部長)



人としてはじめて呼ばれるのが、つけられた名前だ。ファーストネームとかセカンドネームの説明は省くとして、母親の胎内から出たとたんに「ただお」「ただお」...「ただお」と呼びかける。毎日毎日刷り込みをされていく。それで、赤ん坊は自分が「順子」だとか「克己」だとか認識をする。生まれたときに名前をつけてもらうことはみな同じである。それから小学生、中学生、それぞれ人生が方向づけられていく。運が悪い人、運がよい人、それは誰にもわからない、知っているのは神様だけなのだ。悪かったときに神様を恨んではいけないと思う。

さて、就職、進学をするときネーミングががらりと変わる。「榎田君」とか、「橋本さん」とか、「佐藤」と呼ばれる。そつゆつゆに呼ばれると、なんとなく大人になったような満足感に浸ってしまう。そして気がつかないうちに、自分の名前は書類等にサインをするときの付録みたいになっていった。

女性の場合には結婚することで名字が変わる。変わったことにより責任が重くなりよき嫁になるように努力する。姑や小姑に神経を使いながら子を産み育てつつ徐々にわが地位をひろげていくのである。

男はコツコツと、黙々と働き続けていく。それぞれ日々努力して生活をしていく、気がつけばお墓や、墓石の広告を何の違和感もなく見ている。そして還暦ともなると「クラス会」「同窓会」とか、「ふるさと小野町会」とかに参加してみようかなとそんな気分になってくる。

さて参加してみると、妙な雰囲気を感じられる。全員が老けてはいるが、決して別人ではない。田舎弁や標準語ではない何かが違う。そつだこれが一番違う。皆が名前前で呼び合っている。「敦也」「日出子」「克己」「子ども」などに帰ってしまっている。こんなことは今まで体験したことがなく、不思議な気分になってしまった。そうなのだ、生まれて初めて呼ばれた自分の名前が、こんなに旋律が良かったことに気がついた。話題なんかどうでもいい、この雰囲気浸るだけで幸せな気分である。

年上のいとこたちは「たけひろ」「たけひろ」と呼びつける。「はい」と返事する自分、きびきびと動きたくなる自分、そしてはしゃぎたくなっている自分に驚いてしまった。苗字の世界と、名前の世界が別々に存在していることに気がついた。名前の世界は母親の膝元にいたころと同じだ、暖かく安心感がある。

誠に不思議なことに気がつき、今ではせつせと「ふるさと小野町会」や「クラス会」に参加させていたたいております。

**小町さくら商品券(敬老祝金)は
利用しましたか？**

昨年9月の敬老会で、敬老祝金として「小町さくら商品券」をお渡ししました。

商品券の有効期限は、3月11日(木)までです。有効期限を過ぎてしまつと、利用することができません。お手元に商品券が残っていないか、ご確認ください。

まだ利用していない方は、『小町さくら商品券取扱加盟店』の表示がある商店等で、お早めにご利用ください。

◆問い合わせ

健康福祉課
☎7216934



昨年9月の敬老会の様子

**臨時保育士等の
登録のお知らせ**

町では、町立保育園、幼稚園、児童園の業務を円滑に行うため、臨時保育士等の登録を次のとおり行います。

今回登録された方は、4月以降に臨時的に保育士等の雇用が必要になった場合の選考対象者となります。現在は保育士等として仕事をしていない方でも登録をお願いします。

なお、登録された方が必ずしも雇用されるものではありませんので、ご了承ください。

●登録に必要な資格等

保育士資格
幼稚園教諭免許
(学校教育免許も可)

●受付期間

2月12日(金)～3月5日(金)
※土曜日、日曜日を除く

●提出書類

履歴書(市販のものでも可)
資格等証明書の写

◆提出先・問い合わせ

教育課
☎72167800